

第10回「日本語大賞」

テーマ「忘れられない言葉」

高校生の部 優秀賞 受賞作品

「ホープ」

沖縄県

昭和薬科大学附属高等学校

1年 島袋 玲華

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

ある夏の土曜日、私はいつもの場所で母の迎えを待っていた。そこにはもう一人女性がいた。その人も迎えを待っていたらしく、暑いですねと話しかけてきた。そうですねと答えて、しばらく。学校はどこなのかとか今日も学校だったのかとか話をした。そして先にその人の迎えが来た。

「あなたたちが未来の沖縄のホープなのよ。だから頑張つて。」

その人は私にそう言って帰っていった。すごく上品できれいな人だった。あんなに上品な雰囲気の人をはじめて見たし、そのしゃべり方や言葉も上品な感じがした。

ホープだなんて言われたのははじめてだったから驚いた。最近の学生はと言う人がたくさんないるなかで、その人は私にホープだと言ってくれた。きっと「あなたたち」というのはあなたたち若者という意味で私だけに言ったことではないが、ホープである「あなたたち」のなかに私も入っているということがとてもうれしかった。

時間がたった今も、ときどきあの言葉を思い出す。短い時間の出来事だったが、あの日会った女性のあの言葉が忘れられない。あの時、私は頑張りますと答えた。あの言葉を思い出すと、もし今あの人に会ったら私は今頑張っていますと言えるのだろうか、いつも考える。そして、もっと頑張らなくては、勉強でも部活でも自分でできることを精いっぱいやらなくてはと思う。見えないけれど、私たちのことをホープだと言ってくれる人がいるということが、私を頑張らせてくれるのだ。今思えば、その人は特に意味を込めて言ったわけではないと思うし、もしかしたらその人にとってはただの挨拶だったかもしれない。それでも、なぜか心に残るのだ。他の話はそれほど覚えていないが、最後のその一言だけは、はっきりと覚えている。あの人さらさらと言った言葉は私にとって忘れられない言葉となった。

ぼうっとしていると、あの言葉をふっと思い出す。そして、なんとなく頑張ろうと思う。何にもやる気が起きないときも、何かはじめようと思える。なにか不思議だ。いつも覚えているわけではないが、ふとしたときに思い出す。そして私に頑張ろうと思わせてくれるのだ。同じ言葉でも、別の人に言われていたら私も受け流してしまっていたらどうだろう。そういうことを考えていると、あの時あの人に会い、あの言葉をかけてもらえたのが奇跡のように思えてくる。

私の忘れられない言葉は、私の身近な人の言葉でも、歴史に残るような偉人の言葉でもない。ある日偶然会った一人の女性の言葉だ。他の人が聞いたら気にもとめないかもしれない一言だ。それが、私には忘れることができないのだ。

もう二度とあの人に会うことはないかもしれないし、会ってもきっと気づかない。だけど、私は今頑張っていますと言えようになりたい。あの言葉は私にそう思わせ、今日も頑張らせてくれる。